

Ⅶ 大洋州地域

1. 大洋州地域に対する政府開発援助（ODA）の考え方

（1）意義

大洋州地域の島嶼国・地域（以下、太平洋島嶼国という）は、我が国と太平洋を共有する隣接地域であり、同地域の安定と発展及び我が国の安全と繁栄とは不可分である。太平洋島嶼国は、国土は小さいものの、広大な排他的経済水域を有していることから、水産資源の供給地であるとともに、エネルギー資源等の海上輸送ルートにもなっており、我が国にとって戦略的重要性が高い。また、戦前に我が国の国際連盟委任統治下にあり、人口の約2割を日系人が占めているとされるミクロネシア三国（ミクロネシア連邦、マーシャル、パラオ）のように、歴史的にも我が国と深いつながりがある国・地域もある。さらに、太平洋島嶼国においては、経済的自立に向けた基盤づくりのため、我が国からの援助への期待も大きく、これに応えることは我が国の外交上も有意義である。

援助を実施するに当たっては、各国ごとに、その国家・経済規模、天然資源の有無、社会基盤の程度、政府の開発計画立案・実施能力、経常費用負担能力等がかなり異なっていることから、その発展段階に応じて開発ニーズを把握し、地域・各国の特殊性も勘案した上で、個々のニーズに即した援助を行っていく必要がある。太平洋島嶼国は、国土が広大な地域に散らばり（拡散性）、国内市場が小さく（狭隘性）、国際市場から地理的に遠い（遠隔性）等、開発上の困難を抱えている。第一に、農業・漁業中心の一次産業依存型経済であることから、自然災害や国際価格の変動といった外的要因に対して脆弱である。第二に、民間部門の発展が遅れていることから、経済改革及び民間部門の育成を通じて個々の国・地域が経済的に自立する必要がある。第三に、住民にとって最低限必要な BHN の整備が求められている。第四に、太平洋島嶼国は独立して間もない国が多く、国家の発展に必要な行政能力を有した人材が不足しており、人材育成が急務である。さらに近年では、気候変動による海面上昇や大型のサイクロンによる被害、水不足等、地球規模の環境問題による影響が顕在化している。我が国はこれらの課題の解決に向けた支援を行い、太平洋島嶼国の健全で持続可能な成長を支援していく必要がある。

（2）基本方針

我が国は、麻生総理（当時）と太平洋諸島フォーラム（PIF）議長のタランギ・ニウエ首相が共同議長となつて、2009年5月に北海道トマムにおいて第5回太平洋・島サミット（PALM5）を開催した（PIFは、2002年10月までは南太平洋フォーラム（SPF）と呼称）。同サミットでは、第4回太平洋・島サミット（PALM4）の成果である「沖縄パートナーシップ」のレビューを踏まえ、我が国とPIF各国の新たなパートナーシップの構築につき意見交換を行い、その成果は首脳宣言「北海道アイランダーズ宣言」として採択された。我が国は、PALM5のテーマである「We are islanders-エコで豊かな太平洋」を踏まえ、「環境・気候変動」、「人間の安全保障の視点を踏まえた脆弱性の克服」、「人的交流の強化」の3分野を中心に、3年間で500億円規模の協力を行うことを表明した。

3つの重点課題のうち、「環境・気候変動」については、PALM5において採択された「太平洋環境共同体」宣言を踏まえ、気候変動を含む環境問題に関する協力として、PIFを通じた68億円規模の支援等により、太陽光発電装置、海水淡水化装置といった、我が国の優れた環境技術を供与するとともに、太平洋島嶼国の貴重な環境を守るため、1,500人規模の人材育成を行い、環境・気候変動分野における我が国の知見を共有することとしている。また、「人間の安全保障の視点を踏まえた脆弱性の克服」を達成するために、太平洋島嶼国のMDGs達成に向けた努力、脆弱な経済基盤の克服のための努力を支援するため、2,000人規模の人材育成支援を行うとともに、学校、病院の建設や持続的な農業、漁業への支援を通じて、基礎的な生活条件の改善を支援することとしている。さらに、「人的交流の強化」は、我が国と太平洋島嶼国の間の友好関係の基礎であり、引き続き、将来の架け橋となる人材を育成していく必要があるとの認識の下、人と人との交流を包括的かつ戦略的に強化するため、「キズナ・プラン」を発表し、今後3年間で1,000人規模の青少年交流を行うこと、我が国、ASEAN、太平洋島嶼国をつなぐ新たな交流事業を開始すること、研究留学生を倍増すること及び我が国から太平洋島嶼国への観光促進のための有識者会合を設置することを決めた。

また、2010年10月に、初の試みとして、太平洋・島サミット中間閣僚会合（前原大臣（当時）が議長）を開催し、PALM5の着実なフォローアップ状況を確認するとともに、2012年5月に沖縄で開催される第6回太

大洋州地域

平洋・島サミット (PALM6) に向けた議論を行った。

表-1 主要経済指標等

国・地域名	人口	GNI総額	一人あたり GNI	経済成長率	貿易額			対外債務残高	債務返済 比率 (DSR)	財政収支 /GDP比	債務 /GNI比	債務残高 /輸出比	援助受取総額
	2009年 (百万人)	2009年 (百万ドル)	2009年 (ドル)	2009年 (%)	輸出	輸入	貿易収支	2009年 (百万ドル)	2009年 (%)	2009年 (%)	2009年 (%)	2009年 (%)	2009年 (百万ドル)
					2009年 (百万ドル)	2009年 (百万ドル)	2009年 (百万ドル)						
キリバス	0.1	174.00	1,830	-0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	27.18
クック諸島	0.02	-	-	-0.5	4.40	290.23	-285.83	-	-	-	-	-	-
サモア	0.2	480.84	2,840	-5.5	174.26	286.05	-111.80	235.50	1.8	-	26.9	79.3	77.43
ソロモン	0.5	473.09	960	-1.2	235.90	338.11	-102.22	155.91	2.1	-	20.9	42.7	205.91
ツバル	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17.50
トンガ	0.1	332.65	3,350	1.7	-	-	-	104.50	1.2	-	20.1	106.7	39.51
ナウル	0.01	-	-	-18.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニウエ	0.002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バヌアツ	0.2	593.81	2,620	3.5	-	-	-	129.81	0.9	-	16.3	35.4	103.31
パプアニューギニア	6.7	7,854.65	1,180	5.5	4,579.33	4,802.47	-223.15	1,555.13	6.9	-	17.5	20.9	413.68
パラオ	0.02	126.79	6,220	-2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	35.35
フィジー	0.8	2,829.12	3,830	-3.0	1,330.89	1,750.15	-419.27	431.66	0.9	-	11.8	23.2	71.12
マーシャル	0.06	183.40	3,050	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58.78
ミクロネシア	0.1	295.50	2,610	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	120.99

出典) World Development Indicators/The World Bank (2011)

注) 1. クック諸島: 出典) クック諸島統計局。貿易額は、輸出がFOB価額、輸入がCIF価額。いずれもニュージーランド・ドル。

2. ナウル: 出典) ADB。

3. ニウエ: 出典) 太平洋共同体事務局。

表-2 我が国との関係

国・地域名	貿易額			我が国による 直接投資	進出日本 企業数	在留する 日本人数	日本在留人数
	対日輸出	対日輸入	対日収支				
	2010年 (百万円)	2010年 (百万円)	2010年 (百万円)	2010年 (百万ドル)	2010年 10月現在	2010年 10月1日現在 (人)	2010年 12月31日現在 (人)
キリバス	506.06	2,805.85	-2,299.79	-	-	11	6
クック諸島	1,515.90	46.64	1,469.26	-	-	-	-
サモア	24.37	2,822.92	-2,798.55	-	4	70	55
ソロモン	823.85	1,038.38	-214.53	-	3	79	33
ツバル	105.92	3,997.65	-3,891.73	-	-	5	3
トンガ	71.14	1,764.28	-1,693.14	-	1	89	106
ナウル	543.81	16.37	527.44	-	-	-	4
ニウエ	3.02	4.20	-1.18	-	-	-	-
バヌアツ	5,023.39	3,889.61	1,133.78	-	1	83	6
パプアニューギニア	86,992.26	25,770.64	61,221.61	-	3	213	58
パラオ	1,420.70	853.29	567.41	-	2	310	28
フィジー	6,964.51	2,540.33	4,424.18	-	3	429	197
マーシャル	909.15	173,762.10	-172,852.95	64.73	-	61	8
ミクロネシア	667.69	1,306.70	-639.01	-	1	112	38

出典) 貿易統計/財務省、貿易・投資・国際収支統計/JETRO、海外進出企業総覧/東洋経済新報社 (2011年)、海外在留邦人数調査統計/外務省 (平成23年)、在留外国人統計/法務省 (平成22年)

2. 大洋州地域に対する2010年度ODA実績

大洋州地域に対する我が国二国間 ODA は、2010 年における全世界に対する二国間 ODA 総額の 2.4% を占める 176.30 百万ドル (支出純額ベース) であった。

円借款については、2007 年 12 月、「ADB との円借款協調融資促進枠組 (ACFA : Accelerated Co-finance with ADB)」の下で、ADB との協調融資により、サモアに対し「電力セクター拡張計画」を支援するための 45.98 億円の円借款を初めて供与したほか、2009 年 12 月、パプアニューギニア (PNG) に対し、「ポートモレスビー

下水道整備計画」を支援するための82.61億円の円借款供与を決定（いずれも交換公文ベース）した。

無償資金協力については、水産、教育、保健・医療、電力、運輸等の分野を中心に供与してきており、2010年度実績は約74.69億円（原則、交換公文ベース）であった。

技術協力については、環境、教育、保健・医療を主な分野として専門家派遣、研修員受入、JOCVの派遣等を行った。また、近年この地域に対しては、機材供与も含めた感染症対策や廃棄物管理、遠隔教育、防災などの広域技術協力を進めている。なお、2010年度実績は約39.22億円（JICA経費実績ベース）であった。

上記に加え、島嶼国が拡散性、狭隘性、遠隔性を克服し、持続可能な開発を進めるためには、大洋州地域を総合的に捉えたアプローチも不可欠である。そのために我が国は、地域協力の枠組みで、地域の国際機関であるPIFに対する協力として、1988年度から資金協力を行う（2010年度は約20万ドル拠出）とともに、PALM5において採択された「北海道アイランダーズ宣言」を踏まえ、太平洋環境共同体の下、太陽光発電装置や海水淡水化装置といった、我が国の優れた環境技術を供与するため、PIFを通じた68億円規模の支援を行った。また、経済的自立を支援するためには民間セクターの育成が不可欠であるため、1996年10月、我が国はSPF事務局（現在のPIF事務局）と共同で東京に「太平洋諸島センター」（PIC：Pacific Islands Centre）を開設し、それ以来、島嶼国と我が国との間の貿易・投資・観光開発の促進に努めている。

表-3 大洋州地域に対する我が国二国間ODA実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年		2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	累計
ODA 与 贈	無償資金協力	48.41 (2.5)	61.34 (3.6)	37.25 (2.2)	20.52 (0.5)	68.27 (1.0)	53.50 (1.1)	45.93 (1.3)	42.72 (0.9)	82.05 (3.5)	140.13 (4.0)	1,594.88
	(うち国際機関を通じた贈与)	-	-	-	-	-	-	0.84 (0.2)	0.82 (0.1)	17.08 (2.1)	11.08 (0.9)	29.82
	技術協力	44.66 (1.6)	46.82 (1.8)	48.86 (1.8)	41.09 (1.5)	47.95 (1.8)	45.47 (1.7)	46.89 (1.8)	45.65 (1.5)	46.29 (1.5)	50.80 (1.5)	1,171.09
	贈与計	93.07 (2.0)	108.16 (2.5)	86.11 (1.9)	61.61 (0.9)	116.22 (1.3)	98.97 (1.3)	92.82 (1.6)	88.37 (1.1)	128.34 (2.3)	190.93 (2.8)	2,765.97
	政府貸付等	8.43 (0.3)	-14.72 -	-33.98 -	-19.46 -	-22.52 -	-22.80 -	-22.54 -	-15.44 -	-16.45 -	-14.62 -	193.20
政府開発援助計 (ODA計)		101.50 (1.4)	93.46 (1.4)	52.14 (0.8)	42.14 (0.7)	93.69 (0.9)	76.16 (1.0)	70.29 (1.2)	72.93 (1.1)	111.89 (1.8)	176.30 (2.4)	2,959.18

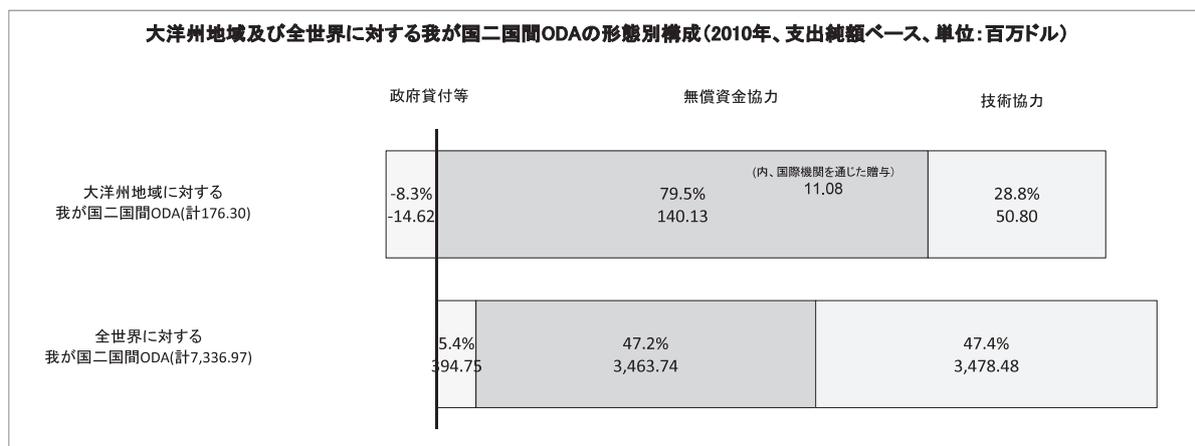
出典) OECD/DAC

注) 1. ()内は各形態別の全世界合計（東欧・卒業国を除く）に占める大洋州地域の割合（%）

- 従来、国際機関を通じた贈与は「国際機関向け拠出・出資等」として本データブックの集計対象外としてきたが、2006年より拠出時に供与先の国が明確であるものについては、各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することに改めた。
- 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

図-1 大洋州及び全世界に対する我が国二国間ODAの形態別構成

(2010年、支出純額ベース、単位：百万ドル)



大洋州地域

表-4 大洋州地域に対する我が国国別二国間ODA実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

国・地域名	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
キリバス	2.57	8.84	3.70	1.18	11.69	9.88	13.05	7.68	6.79	3.47
クック諸島	0.23	0.10	0.19	0.17	0.18	0.17	0.10	0.02	0.05	0.09
サモア	13.52	15.36	11.48	4.62	12.52	16.81	8.46	4.80	15.97	27.02
ソロモン	-1.46	-2.09	-18.89	2.86	14.16	14.30	15.41	9.48	5.98	16.33
ツバル	4.54	8.04	2.28	0.71	1.04	8.28	2.94	5.76	8.58	4.54
トンガ	11.14	5.46	4.89	2.98	11.24	4.41	4.55	3.75	11.72	23.77
ナウル	0.08	0.22	0.22	0.27	1.24	0.48	1.51	1.49	2.47	1.64
ニウエ	0.07	0.06	0.05	0.03	0.09	0.10	0.03	0.05	0.07	0.05
バヌアツ	3.37	2.51	2.32	3.61	3.20	3.91	8.63	13.91	13.07	15.61
パプアニューギニア	26.18	4.40	-3.14	-6.05	-5.16	-8.97	-10.63	-82.57	-4.16	22.21
パラオ	14.06	16.57	10.71	4.46	9.34	9.34	6.66	12.73	6.07	9.58
フィジー	12.73	18.74	24.79	14.15	12.59	7.98	5.75	6.31	23.23	19.02
マーシャル	4.21	5.07	3.44	5.80	10.26	3.12	2.11	2.43	8.30	12.59
ミクロネシア	9.67	9.65	7.81	5.70	8.02	5.33	9.36	5.23	9.38	16.34
ワリス・フツナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大洋州の複数国向け	0.59	0.53	2.29	1.65	3.28	1.02	2.36	81.86	4.37	4.04
合計	101.50	93.46	52.14	42.14	93.69	76.16	70.29	72.93	111.89	176.30

出典) OECD/DAC

注) 複数国向け実績とは、調査団の派遣やセミナー等、複数国にまたがる援助。

表-5 大洋州地域に対する我が国二国間ODAの形態別・国別・年度別実績

(1) 円借款

(単位：億円)

国名	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累計
パプアニューギニア	-	-	-	82.61	-	704.46
フィジー	-	-	-	-	-	22.87
サモア	-	45.98	-	-	-	45.98
合計	-	45.98	-	82.61	-	773.31

(2) 無償資金協力

(単位：億円)

国・地域名	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累計
キリバス	14.95	2.28	4.25	1.39	1.80	175.50
クック諸島	-	-	0.00	-	-	0.50
サモア	0.60	0.43	13.67	8.22	3.00	254.32
ソロモン	17.37	2.08	4.47	12.92	24.51 (0.09)	221.43 (0.09)
ツバル	1.19	10.52	2.30	1.20	9.14	75.60
トンガ	2.03	1.00	9.05	11.46	9.32	156.00
ナウル	1.08	1.20	2.16	1.17	1.17	14.52
バヌアツ	7.16	9.21	4.68	11.88	4.61	110.60
パプアニューギニア	-	6.48	15.88 (0.11)	15.58 (0.66)	13.53	355.75 (0.77)
パラオ	0.29	4.36	9.88	4.92	0.44	181.14
フィジー	0.75	1.84	6.78	25.96	1.02	182.02
マーシャル	0.52	0.66	11.02	5.89	0.76	126.51
ミクロネシア	7.25	0.67	9.01	23.46	5.39	189.90
合計	53.19	40.72	93.17 (0.11)	124.03 (0.66)	74.69 (0.09)	2,043.80 (0.86)

(3) 技術協力

(単位：億円)

国・地域名	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	累 計
キ リ バ ス	1.32 (0.61)	1.57 (0.33)	2.39 (1.11)	1.71 (0.63)	0.65	39.19
ク ッ ク 諸 島	0.19 (0.17)	0.05 (0.05)	0.01 (0.01)	0.06(0.04)	0.06	7.87
サ モ ア	5.84 (5.70)	5.68 (5.55)	4.04 (3.99)	4.62 (4.56)	3.19	119.38
ソ ロ モ ン	4.19 (3.35)	4.19 (3.53)	3.99 (3.06)	4.01 (3.39)	3.51	90.00
ツ バ ル	1.08 (0.69)	0.60 (0.29)	1.02 (0.75)	2.80 (2.49)	2.27	17.83
ト ン ガ	2.80 (2.65)	2.65 (2.53)	2.78 (2.66)	3.23(3.10)	2.95	94.42
ナ ウ ル	0.47 (0.06)	0.42 (0.08)	0.27 (0.02)	0.26 (0.04)	0.06	2.02
ニ ウ エ	0.12 (0.10)	0.04 (0.04)	0.04 (0.04)	0.07 (0.06)	0.03	1.43
ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	—	—	—	—	—	0.02
バ ス ア ツ	5.16 (5.05)	5.09 (4.84)	3.67 (3.64)	3.96 (3.92)	2.73	61.63
パ プ ア ニ ュ ー ギ ニ ア	11.76(11.39)	9.84 (9.35)	8.49 (7.95)	6.86 (6.42)	8.59	263.28
パ ラ オ	4.54 (4.14)	3.58 (3.20)	2.92 (2.47)	2.37 (2.07)	3.15	54.00
フ ィ ジ ー	8.82 (8.17)	6.27 (5.85)	6.92 (5.71)	8.26 (7.26)	7.28	237.28
マ ー シ ャ ル	2.13 (1.65)	2.02 (1.53)	2.13 (1.56)	1.91 (1.48)	1.71	39.47
ミ ク ロ ネ シ ア	4.32 (2.75)	3.48 (2.43)	4.07 (2.60)	2.87 (2.07)	1.89	73.02
大洋州の複数国向け	3.08 (2.66)	2.71 (2.59)	3.33 (2.67)	3.64 (3.43)	1.14	35.93
合 計	55.82 (49.13)	48.17 (42.17)	46.05 (38.24)	46.64 (40.96)	39.22	1,136.79

- 注) 1. 「年度」の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。ただし、無償資金協力のうち、国際機関を通じた贈与（2008年度実績より、括弧内に全体の内数として記載）については、原則として交換公文ベースで集計し、交換公文のない案件に関しては案件承認日又は送金日を基準として集計している。草の根・人間の安全保障無償資金協力和日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
 4. 2006～2009年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2006～2009年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2010年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計については2008年度までにJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
 5. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

表一六 大洋州地域に対する我が国無償資金協力のサブ・スキーム別実績

(1) 全体内訳

(単位：億円)

年度	一般プロジェクト	ノン・プロジェクト	草の根・人間の安全保障	日本NGO連携	人材育成研究支援	テロ対策等治安	防災・災害復興支援	コミュニティ開発支援	貧困削減戦略支援	環 境	水 産	文 化	緊 急	食糧援助(KR)	貧困農民支援(2KR)	総 計
2008年	50.66 (8.4)	12.00 (4.4)	6.30 (5.3)	0.10 (0.4)	—	—	10.68 (36.0)	—	—	—	13.28 (28.6)	0.03 (0.2)	—	—	—	93.06 (5.5)
2009年	75.24 (12.3)	4.00 (1.2)	6.42 (5.4)	—	—	—	1.96 (4.9)	—	—	35.75 (6.3)	—	—	—	—	—	123.37 (5.5)
2010年	30.23 (5.9)	4.00 (1.9)	5.55 (5.0)	0.38 (0.7)	—	—	24.77 (44.4)	—	—	9.59 (2.6)	—	0.09 (1.0)	—	—	—	74.60 (4.2)

- 注) 1. () は、金額の全世界合計に占めるシェア (%)
 2. ノン・プロジェクトには「紛争予防・平和構築無償資金協力」を含む。
 3. 文化には「一般文化無償資金協力」と「草の根文化無償資金協力」を含む。
 4. 「貧困農民支援(2KR)」は、2005年度に「食糧増産援助(2KR)」を改称したもの。
 5. 2006年度から「テロ対策等治安無償資金協力」、「防災・災害復興支援無償資金協力」、「コミュニティ開発支援無償資金協力」を追加。
 6. 2008年度から「環境プログラム無償資金協力」及び「貧困削減戦略支援無償資金協力」を追加「環境プログラム無償資金協力」はその後「環境/気候変動対策無償資金協力」となった。

(2) 一般プロジェクト無償資金協力内訳

(単位：億円)

年度	医療・保健	水・環境	教育	農業・水産	防災・災害	道路・港湾・通信など	エネルギー	地 雷	そ の 他	計
2010年	3.80 (3.0)	—	—	—	—	26.43 (10.8)	—	—	—	30.23 (5.9)

- 注) () は、金額の全世界合計に占めるシェア (%)

大洋州地域

表-7 大洋州地域に対する我が国技術協力の年度別・形態別実績

年度	経費総額 (億円)	研修員受入 (人)	専門家派遣 (人)	調査団派遣 (人)	協力隊派遣 (人)	その他ボランティア (人)
2006年	55.82 [49.16] (2.5) [(3.3)]	620 [469] (1.3) [(1.5)]	180 [148] (2.2) [(3.3)]	244 [128] (3.5) [(2.2)]	[120] [(7.9)]	[42] [(10.9)]
2007年	48.17 [42.17] (2.8) [(4.0)]	457 [382] (1.2) [(1.8)]	160 [144] (1.9) [(2.9)]	270 [181] (4.2) [(3.2)]	[141] [(9.5)]	[39] [(9.7)]
2008年	46.05 [38.24] (2.1) [(2.5)]	722 [582] (1.3) [(1.6)]	119 [99] (1.6) [(2.2)]	325 [141] (6.4) [(3.0)]	[102] [(7.5)]	[40] [(8.1)]
2009年	46.64 [40.96] (1.9) [(2.3)]	493 [476] (1.6) [(1.6)]	161 [155] (2.3) [(2.3)]	128 [116] 2.4[(2.2)]	[141] [(8.3)]	[47] [(9.3)]
2010年	39.22 (3.2)	419 (1.8)	201 (2.5)	101 (1.5)	140 (9.6)	51 (11.9)

- 注) 1. 年度の区分は、予算年度による。
 2. () 内は、全世界に占める大洋州地域のシェア (%)
 3. 2006～2009年度については、日本全体の技術協力事業の実績。2006～2009年度の [] 内はJICAが実施している技術協力事業の実績。
 なお、2010年度の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。

表-8 大洋州地域に対するDAC主要援助国の二国間ODAの推移

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

国名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
日本	93.69 (0.9)	76.16 (1.0)	70.29 (1.2)	72.93 (1.1)	111.89 (1.8)
米国	159.23 (0.6)	187.01 (0.9)	171.74 (0.9)	187.96 (0.8)	215.91 (0.9)
英国	7.56 (0.1)	3.82 (0.0)	5.39 (0.1)	6.32 (0.1)	5.80 (0.1)
フランス	109.60 (1.5)	112.07 (1.4)	133.72 (2.1)	148.49 (2.3)	142.53 (2.0)
ドイツ	3.07 (0.0)	0.07 (0.0)	-2.38 (-)	2.62 (0.0)	5.21 (0.1)
イタリア	- (-)	24.47 (1.2)	0.37 (0.0)	1.85 (0.1)	0.11 (0.0)
カナダ	3.74 (0.1)	2.05 (0.1)	8.16 (0.3)	3.48 (0.1)	23.21 (0.7)
オーストラリア	483.38 (33.4)	550.31 (30.6)	649.53 (28.6)	723.50 (27.3)	703.64 (30.4)
スウェーデン	0.26 (0.0)	0.12 (0.0)	0.38 (0.0)	0.30 (0.0)	0.01 (0.0)
全DAC諸国計	974.42 (1.2)	1,073.24 (1.4)	1,176.78 (1.6)	1,312.97 (1.5)	1,351.60 (1.6)

- 注) () 内は、各DAC諸国の二国間ODAの総計（東欧及び卒業国向け援助を除く）に占める大洋州地域のシェア (%)

表-9 大洋州地域諸国に対するDAC主要援助国の国別二国間のODA実績（2008年）

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

	日本	米国	英国	フランス	ドイツ	イタリア	カナダ	オーストラリア	スウェーデン	DAC合計
キリバス	6.79	0.02	0.03	-	-	-	0.10	10.07	-	22.47
クック諸島	0.05	-	-	-0.16	-	-	0.01	2.97	-	5.75
サモア	15.97	1.48	0.18	-0.01	0.21	-	0.36	17.81	-	46.54
ソロモン	5.98	0.06	0.23	-	0.01	-	0.22	168.78	-	202.25
ツバル	8.58	0.01	-	-	-	-	0.12	4.58	-	14.77
トケラウ諸島	-	-	-	-	-	-	-	0.82	-	9.66
トンガ	11.72	1.21	0.01	-0.08	-	-	0.06	14.42	-	34.60
ナウル	2.47	-	-	-	-	-	0.04	18.31	-	22.52
ニウエ	0.07	-	-	-	-	-	0.01	1.27	-	6.90
バヌアツ	13.07	22.76	0.10	6.14	0.03	-	0.42	40.04	-	98.09
パプアニューギニア	-4.16	2.76	0.98	0.13	2.47	0.11	0.24	301.85	0.01	322.15
パラオ	6.07	26.76	-	-	0.06	-	0.01	1.01	-	33.97
フィジー	23.23	1.94	0.58	-0.68	0.31	-	0.13	20.07	-	49.71
マーシャル	8.30	49.09	-	-	0.14	-	0.01	1.63	-	59.30
ミクロネシア	9.38	107.56	-	-	0.05	-	0.01	2.11	-	119.26
ワリス・フツナ	-	-	-	117.44	-	-	-	0.02	-	117.49
大洋州の複数国向け	4.37	2.26	3.69	19.75	1.93	-	21.47	97.88	-	186.17
合計	111.89	215.91	5.80	142.53	5.21	0.11	23.21	703.64	0.01	1,351.60

注) 複数国向け実績とは、調査団の派遣やセミナー等、複数国にまたがる援助。

表-10 大洋州地域に対するDAC諸国のODA実績

ODA NET

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2007年	オーストラリア 649.53	米国 171.74	フランス 133.72	ニュージーランド 133.19	日本 70.29	70.29	1,176.78
2008年	オーストラリア 723.50	米国 187.96	ニュージーランド 156.30	フランス 148.49	日本 72.93	72.93	1,312.97
2009年	オーストラリア 703.64	米国 215.91	フランス 142.53	ニュージーランド 135.87	日本 111.89	111.89	1,351.60

政府貸付

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2007年	英国 0.21	オランダ -0.08	韓国 -0.60	フランス -1.57	ドイツ -3.30	-22.54	-27.88
2008年	英国 0.84	オランダ -0.09	韓国 -0.50	フランス -1.95	ドイツ -2.19	-15.44	-19.33
2009年	英国 0.53	韓国 -0.44	オランダ -0.49	ドイツ -1.11	フランス -3.12	-16.45	-21.08

無償資金協力

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2007年	オーストラリア 176.55	米国 171.70	ニュージーランド 93.83	フランス 62.78	日本 45.93	45.93	566.47
2008年	オーストラリア 340.31	米国 187.59	ニュージーランド 114.65	フランス 75.55	日本 42.72	42.72	774.33
2009年	米国 215.85	オーストラリア 196.95	ニュージーランド 135.87	日本 82.05	フランス 55.49	82.05	699.95

技術協力

（支出純額ベース、単位：百万ドル）

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2007年	オーストラリア 472.98	フランス 72.51	日本 46.89	ニュージーランド 39.36	韓国 3.31	46.89	638.18
2008年	オーストラリア 383.19	フランス 74.88	日本 45.65	ニュージーランド 41.65	ドイツ 3.80	45.65	557.96
2009年	オーストラリア 506.69	フランス 90.17	日本 46.29	カナダ 22.22	ドイツ 4.52	46.29	672.74

出典) OECD/DAC

大洋州地域

表-11 大洋州地域に対する国際機関の ODA 実績

ODA NET

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2007年	EU Institutions 71.27	GFATM 10.83	UNTA 9.58	GEF 9.48	UNICEF 8.85	24.08	134.09
2008年	EU Institutions 94.12	UNTA 85.23	GFATM 16.02	UNICEF 6.86	UNDP 6.36	11.45	220.04
2009年	UNTA 85.23	EU Institutions 82.25	GFATM 51.68	GEF 31.55	IDA 13.29	30.92	294.92

政府貸付

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2007年	IDA 4.92	Arab Agencies 0.07	EU Institutions -0.23	IFAD -0.67	ADB -1.54	-	2.55
2008年	IDA -0.62	Arab Agencies -0.64	ADB -9.20	-	-	-	-11.08
2009年	IDA 10.72	IMF 8.94	Arab Agencies -0.06	IFAD -0.73	ADB -15.38	-	3.49

無償資金協力

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2007年	EU Institutions 64.29	GFATM 10.83	GEF 9.48	UNICEF 8.85	ADB 6.84	14.47	114.76
2008年	EU Institutions 83.38	GFATM 16.02	ADB 10.42	UNICEF 6.86	UNDP 6.36	12.09	135.13
2009年	EU Institutions 78.98	GFATM 51.68	GEF 31.55	ADB 17.86	UNDP 9.22	13.66	202.95

技術協力

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2007年	UNTA 9.58	EU Institutions 7.20	-	-	-	-	16.78
2008年	UNTA 85.23	EU Institutions 10.74	-	-	-	-	95.97
2009年	UNTA 85.23	EU Institutions 3.27	-	-	-	-	88.50

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

図一 2 大洋州地域

